

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 公正で透明性の高い学位論文審査体制を構築する。	→外部審査委員の委嘱状況、学位論文公開発表会、審査会の開催状況。	A	A			
2. 学位論文執筆に向けたインセンティブを高めるための学生自身による学修・研究成果にかかる自己評価を試行する。	→履修・研究計画に対応した学生自身の研究活動に関する自己評価 (特に博士論文計画書・予備論文提出などの手順を踏まえた研究進捗状況に関する評価) の実施状況。自己評価を踏まえた教員による評価・指導の実施状況。	B	B			
3. 前期課程・後期課程修了後の進路状況を把握し、それに対応した教育内容・方法等の検討を進める。	→進路状況 (就職・進学・資格取得等) の状況。それを踏まえた大学院にふさわしい指導のあり方の検討の進捗状況。	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 前期課程では収容定員128名に対して定員充足率91%、修士学位取得者は2010年度44名であった。これは入学者数の76%が修士学位取得したことを示しており、昨年度と比べて目標達成度が後退した。後期課程では収容定員60名に対して定員充足率は72%であり、2010年度には16名に課程博士学位を授与した。対入学定員数比率は8割。博士学位取得者の多くは過年度入学者であり、学位取得状況のみで学修達成状況が測定できるわけではないが、昨年度に比べて学位授与という点では一定の成果向上をみた。他方、年次毎の研究報告書を開発中であり、それをふまえた学生の自己評価実施に向けた検討を行っている。
小項目6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 博士学位授与と手続適正化のための制度改革を行い、外部審査委員のよりいっそうの積極的登用、公開発表会の原則化、公開審査も可とするなどの一連の措置を導入し、その方針に従って学位授与審査が行われた。
その他	

《評価指標データ》

各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGP Sの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	課程博士学位授与数は、2005年度の6件、2006年度の4件などと比べて着実に増加しており、2010年度は、前年度よりも4件多い16件となった。学位授与数という点では、博士後期課程の学修・研究指導の前進が確認される。
☆ 小項目6.4.2	制度改革後の博士学位審査において外部審査委員の積極的登用、公開審査会の実施が進んでおり、昨年度授与された博士学位の審査では、16件中全てにおいて公開審査会が実施された。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	学生自身の自己評価の一環として、引き続き年次研究報告書の開発・検討を進める必要がある。また、学外での学会報告は学生自身の研究深化と外部での評価を得る良い機会であるため、学生がそれらに積極的に挑戦できるよう、研究科独自の支援制度を検討する。
☆ 小項目6.4.2	新制度下における学位授与状況の結果をふまえて、よりいっそうの進展をはかるとともに、要改善点を明確にする。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	前期課程・後期課程それぞれについて中退者も含む就職状況などの基礎データを整備し、大学院における修学と修了(退学)後の職業との関連などを把握する必要がある。
☆ 小項目6.4.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	基礎データの収集に努める。またキャリアセンターとの連携を密接にし、大学院生に有効な求人情報を迅速に提供して就職環境の改善をはかる。
☆ 小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 学位授与が順調に行なわれていることは評価できます。
- 課程修了後の進路等の調査・検討は困難な面もあるテーマですが、今後の展開が期待されます。

【学内委員】

- 現在の大学院にはさまざまな目的を持つ学生が混在しております。したがって、かかる学生に対する一様の対応はそれほど意味がないかもしれません。多様な目的を考慮に入れた教育内容や方法の形成が期待されます。
 - 審査制度は整備ができていて評価出来ます。大学院生に有効な求人情報を迅速に提供して就職環境の改善することが望まれます。
 - 記述は課題も明確にされ適切です。
 - 目標の進捗と達成に期待します。
- 昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。
- ・博士学位授与手続適正化のために外部審査委員の積極的登用が行われ、公開発表会・公開審査が実施されていることは評価できます。
 - ・外部審査委員のよりいっそうの積極的登用、公開発表会の原則化、公開審査も可とするなどの一連の措置を導入したことは評価出来ます。
 - ・上記が整備されるにつれて、前期課程・後期課程中途退学者について、研究内容、指導体制について行けない可能性を考えることが望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目6.4.1
基盤評価：なし
達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」
- 小項目6.4.2
基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあつては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」
達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし